

### 3 文化力を高め、地域づくりに活かす

#### (1) 芸術文化資源の掘り起こしとシビックプライドの醸成

##### 【展開方向】

- 歴史文化遺産の確実な保存と積極的な活用を行うとともに、様々な地域資源や芸術文化資源についての掘り起こしや、観光資源としての活用、さらには、兵庫県民が地域に愛着と誇りを持つシビックプライドの醸成につなげる
- 全国最多を誇る9件の日本遺産については、ネットワーク化を図り、各地域の主体的・継続的な活動への支援を図る
- 「兵庫県文化財保存活用大綱（令和2年1月策定）」に基づく市町による地域計画の作成を支援するとともに新たに制定した無形民俗文化財の県登録制度（令和3年4月策定）を活用し、無形の文化財の保護に努める

#### 主な取組

##### ① 文化財・伝統芸能等地域資源の保存と活用

- 文化財保存活用大綱に基づく市町の地域計画作成の支援
- 歴史文化遺産の活用を図るヘリテージマネージャー等の人材育成（再掲）
- 無形民俗文化財の県登録制度の活用促進
- 優れた技術の保存、継承、記録、顕彰の取組
- 学校・地域等での体験事業による伝統文化の普及と伝承への取組

##### ② 産業遺産や地域の芸術文化遺産の再評価 **【重点取組3】**

- 日本遺産の認定と活用
- 県内各日本遺産のネットワーク化による情報共有等
- 兵庫津、北前船寄港地、西国三十三カ所、伊丹と灘五郷など歴史遺産の掘り起こし
- 銀の馬車道、鉾石の道、丹波焼最古の登窯など産業遺産の活用
- 阪神間モダニズムや具体美術協会、淡路人形浄瑠璃など芸術文化遺産の再評価

##### ③ 地域内部への芸術文化資源のPR

- 鑑賞事業やセミナーの開催
- 地域文化資源のPR動画等ICT技術を活用した情報の提供
- 県立芸術文化センターを活用した地域の伝統芸能公演の実施

##### ④ 顕彰ほか様々な機会を捉えた機運醸成

- 地域で活躍した芸術家・技術者等の顕彰
- 地域資源を核とした活性化事業の実施
- 農村歌舞伎・子ども歌舞伎などを含めた地域行事の活性化の推進
- 地域の文化・歴史に関するシンポジウムや講座、イベント等の開催
- 書道のユネスコ無形文化遺産登録応援や昭和100年など様々な機会を捉えた機運醸成



## 文化財保存活用大綱に基づく計画的な保存・活用の推進

兵庫県は、歴史文化遺産を地域全体で守り、次世代へ伝えるための方向性を示した「文化財保存活用大綱」を令和2年1月に策定しました。この大綱を踏まえ、市町は地域の課題に対応する「文化財保存活用地域計画」を作成し、県はその作成に助言や支援を行い、地域の取組を後押ししています。

令和2年2月の神河町を皮切りに、現在15市町が文化庁長官の認定を受け、行政と地域が一体となり、文化財を活かし、歴史や文化を未来へつなぐ取組を進めています。



これまでに認定を受けた市町(令和8年1月現在) 神河町・加西市・香美町・丹波篠山市・淡路市・明石市・西宮市・神戸市・福崎町・新温泉町・小野市・高砂市・多可町・尼崎市・宍粟市(認定順)



## 日本遺産の活用 (ひょうご五国の日本遺産ネットワーク会議)

日本遺産は、地域の歴史的魅力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを国が認定する制度であり、全国で104件、そのうち本県には9件の日本遺産があり全国最多となっています。

県では、日本遺産が所在する23市町と関係団体、県の関係組織等で構成する「ひょうご五国の日本遺産ネットワーク会議」を設置し、構成団体間での相互交流や課題の共有、共通PRポスターの作成、地元の特産品を紹介する「ひょうご日本遺産フェア」の開催など広域的で多彩な取組を展開しています。

名称	構成市町
丹波篠山 デカンショ節-民謡に乗せて歌い継ぐふるさとの記憶	丹波篠山市
古事記の冒頭を飾る「国生みの島・淡路」 ～古代国家を支えた海人の営み～	淡路市、洲本市、南あわじ市
播但貫く、銀の馬車道 鉱石の道 ～資源大国日本の記憶をたどる73kmの轍～	朝来市、姫路市、福崎町、市川町、神河町、養父市
きっと恋する六古窯 —日本生まれ日本育ちのやきもの産地—	丹波篠山市 ほか
荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～	神戸市、高砂市、新温泉町、赤穂市、洲本市、姫路市、たつの市 ほか
「日本第一」の塩を産したまち 播州赤穂	赤穂市
日本海の風が生んだ絶景と秘境 -幸せを呼ぶ霊獣・麒麟が舞う大地「因幡・但馬」	香美町、新温泉町 ほか
「1300年つづく日本の終活の旅～西国三十三所観音巡礼」	宝塚市、加東市、加西市、姫路市 ほか
「伊丹諸白」と「灘の生一本」 下り酒が生んだ銘醸地、伊丹と灘五郷	伊丹市、尼崎市、西宮市、芦屋市、神戸市



上立神岩(国生みの島・淡路)



麒麟獅子(日本海の風)



生野銀山(鉱石の道)



### 文化財の保存・活用（無形民俗文化財の登録制度と ヘリテージマネージャーの養成）

指定制度を補完し、地域に根ざす祭り・行事などを早急に幅広く緩やかに保護することを目的として令和3年度に無形民俗文化財の登録制度を創設し、令和7年度までに11件を登録しました。併せて、「ヘリテージマネージャー（無形民俗文化財部門）を養成する講習会」を実施し、受講を終えたヘリテージマネージャーは、身近な祭りや行事の価値を保存・活用へつなげる活動を行っています。

<兵庫県登録無形民俗文化財>



さいれん坊主（たつの市）



国安天満神社の秋祭り（稲美町）



### ユネスコ無形文化遺産への「書道」の登録

ユネスコ無形文化遺産は、衰退や消滅などの脅威から無形文化遺産の保護を図るため平成16年6月に創設され、日本からはこれまで「能楽」「人形浄瑠璃」「歌舞伎」「雅楽」「伝統的酒造り」など23件が登録されています。令和7年3月、24番目の国内候補として「書道」の推薦が決定され、順調に進めば、令和8年11～12月頃に正式登録される見込みになっています。

ユネスコ登録を契機として我が国の「書道」文化を広く国内外へ発信するとともに、小中学校における適切な書写教育等を通じて無形文化遺産としての「書道」を後世にまで着実に伝えていく取組が重要になります。

このような状況下、書道文化が盛んで「書道王国」とも呼ばれている本県では、令和5年に本県ゆかりの書道家が文化勲章及び文化功労者を受賞したほか、小中高大学と書道団体・人材を「つなぐ」ことを目的にNPO法人による「兵庫書写・書道フェスティバル」が開始されるなど世代を超えた草の根的な活動もはじまっています。



ユネスコ登録に向けた運動ロゴマーク



原田の森ギャラリーでの書道展

## (2) 地域資源を活用した地域の元気づくりの推進

### 【展開方向】

- 芸術文化の地域資源としての魅力向上により、関心の高まりや携わる人（働き手、担い手）の増加、新たな魅力の創造・発信が図られ、観光を通じて「ヒト・モノ・カネ」が動くことに貢献し地域が活性化することで、さらに芸術文化の振興が図られる好循環の創出をめざす
- 瀬戸内国際芸術祭等の誘客機会を活かして、インバウンドも含めた新たな人の流れを生み出していく
- 全国最多9つの日本遺産やフィールドパビリオンの各コンテンツ等を活かした文化ツーリズムの推進により好循環を生み出していく
- 音楽と伝統文化など異種のを組み合わせる手法や体験型コンテンツの造成など、時代の要請にも応えていく

### 主な取組

#### ① 地域資源の観光と地域活性化への活用 【重点取組3】

- 世界文化遺産の姫路城などの歴史遺産、淡路人形浄瑠璃をはじめとした伝統芸能、宝塚歌劇などの特色ある舞台芸術といった兵庫五国の多様で豊かな文化資源がツーリズム資源として活用されるための観光振興分野との連携
- 地域文化や環境の保全、地域経済の発展を生み出すサステナブルツーリズムの推進
- 銀の馬車道、鉱石の道、丹波焼最古の登窯など産業遺産を活用した地域振興（再掲）
- 兵庫津、松帆銅鐸など歴史遺産を活用した地域振興
- 温泉や自然・文化体験などを通じた心身のリトリートツーリズムの推進
- アニメーション、音楽フェスなどのポップカルチャーの活用や伝統文化等他分野の芸術文化資源との組み合わせによる相乗効果を生み出す取組の推進
- 魅力ある修学旅行先である兵庫県とその地域資源のPR
- 芸術文化観光専門職大学「地域リサーチ&イノベーションセンター」によるコンサルティング機能・シンクタンク機能・インキュベーション機能の発揮
- 万博を契機とした連携プロジェクト(美術館、音楽)やフィールドパビリオンの継続・発展（再掲）

#### ② 観光資源としての魅力向上に向けた展開方向の充実 【重点取組3】

- フィールドパビリオンのコンテンツを活用した滞在型・体験型へのコンテンツの充実
- インバウンドの来訪者に対応した多言語での情報発信の充実（ホームページでの情報提供、SNSでの発信、現地での案内・解説など）
- 文化団体・文化財管理者等が、地域の多様な主体とともに観光地域づくり法人（DMO: Destination Management/Marketing Organization）と連携し、観光コンテンツを造成する取組に参画
- 兵庫・香川連携によるアートや伝統工芸等をテーマにしたコンテンツ・ツアーの造成や、瀬戸内国際芸術祭と連動した美術館連携など近隣府県との協調事業の実施

③ 地域文化資源を活用したまちづくりの推進 【重点取組3】

- 地元の芸術家等と連携した取組の推進
- 空き家等を活用したアーティストインレジデンスやアーティストの移住促進
- ミュージアムロード、阪神間モダニズム、銀の馬車道、祭り等地域資源を核とした活性化事業の実施
- 地域におけるアートイベント、音楽コンクール等芸術文化関係の集客イベントの実施

④ 芸術家の発想を活用した地場産品等の制作・発売 【重点取組3】

- 職人の確保や販路開拓を含めた国・県指定伝統的工芸品等の振興
- 豊岡かばんや播州織など地場産業等への若手芸術家の導入



文化観光推進法に基づく拠点計画及び地域計画

地域の文化拠点施設を中核とした文化観光の推進を図るため、国は令和2年5月に文化観光推進法を制定し、認定を受けた事業計画（拠点計画及び地域計画）に対し、最大5年間にわたり伴走支援や補助金交付等の支援を行っています。

兵庫県内で認定された計画は4件（拠点計画3件、地域計画1件）と全国最多※となっており、各拠点を中心とした文化観光推進の取組により文化・観光・経済の好循環を生み出すことが期待されています。（※令和6年度末現在）

<兵庫県内の拠点施設と認定計画>



姫路市立美術館  
（姫路市）拠点計画  
（令和3年度認定）



立杭陶の郷  
（丹波篠山市）拠点計画  
（令和5年度認定）



城崎国際アートセンター  
（豊岡市）地域計画  
（令和3年度認定）



醸ス場かねる  
（たつの市）拠点計画  
（令和6年度認定）



三田青磁の兵庫県伝統的工芸品指定

令和7年8月、三田市の「三田青磁」が「皆田和紙」以来10年ぶり27件目の県伝統的工芸品として指定されました。

三田青磁は、青磁作りに必要な釉薬の原料となる「青磁石」が三田地域で採掘できたことがきっかけで、江戸時代後期より生産が始まり、中国の竜泉青磁、韓国の高麗青磁と並ぶ世界三大青磁のひとつとも称されました。

昭和の大戦末期には一度衰退してしまいましたが、平成初年頃より、三田市の青磁作家・伊藤瑞寶さんが三田市市内で青磁石を採集するところから始め、かつての技法を忠実に再現した形での製作に成功しました。今回の指定により、三田青磁への関心が高まり、後継者の確保・育成につながることが期待されます。



三田青磁



## 兵庫の「音楽フェス」の取組

兵庫県内では年間 20～30 程度(※)の音楽フェスが開催されていますが、比較的中・小規模のフェスが多いのが特徴です。中には、阪神・淡路大震災を契機に始まり、震災を語り継ぎ、神戸から恩返しすることを目的に実施する「COMING KOBE」や、県内出身アーティストが主催する「MEGAVEGAS」なども開催されています。(※本県調べ)

そうした中で、令和7年10月、県内を代表する7つの人気フェスが神戸ベイエリアに集結し、新たな複合型フェス「MASHUP FESTIVAL kobe」が立ち上がりました。複数のフェスが連携する取り組みは全国的にも例がなく、大きな反響を呼びました。

神戸のウォーターフロントを舞台に、地域文化とフェスカルチャーを掛け合わせた「MASHUP」という新しいスタイルが多くの音楽ファンや家族連れを魅了し、約11,000人が参加しました。

兵庫県では、地域の多彩な魅力と音楽を掛け合わせた新たな取り組みをサポートすることで、「フェス県ひょうご」の魅力を発信してまいります。



ARIFUJI WEEKENDERS@三田市



COMING KOBE@神戸市



MASHUP FESTIVAL kobe@神戸市



## 文化・スポーツ事業における姫路城とのコラボ

世界遺産・国宝姫路城は従来から文化財の保護と観光振興が一体的に進められ、「姫路お城まつり」など多くの人に馴染みのあるイベントが行われています。近年、芸術やスポーツとのコラボも開催されるようになり、世界的ヴァイオリニスト・榎本大進氏の提案で始まった「ル・ボン国際音楽祭 赤穂・姫路」は、姫路城や赤穂城跡が会場となり、兵庫を代表する歴史的建築物と世界トップレベルの音楽が響き合う、他にない魅力を持つ取り組みです。

また、姫路城前の大手前公園では、令和7年7月19日(土)に、3人制バスケットボールの試合が開催され、世界遺産・国宝の景観の前で、全国の強豪によるハイレベルな試合が繰り広げられました。県産品の販売やキッチンカーの出店など、詰めかけた観衆だけでなく、SNS等でも注目を集め、大いに賑わいました。

このような取組は、多くの地域資源を有する本県のモデルとなるものであり、今後インバウンドも絡めてますます活発化することが期待されています。



ル・ボン国際音楽祭 赤穂・姫路



3人制プロバスケットリーグ戦

## 4 みんなで支え、総合的に取り組む

### (1) 県民自らが芸術文化を支え、育てる

#### 【展開方向】

- 芸術文化を「支える」観点から能動的に鑑賞し、自ら積極的に芸術家を育てようとする鑑賞者の裾野拡大に取り組むとともに、ボランティア等の活動を活発化させ、施設運営への地元住民の参画を促す
- ふるさと寄附、クラウドファンディング等で、企業・個人からの支援を得てきたが、地域の芸術文化を支えるため、新たな寄附手法の導入や受益者負担も求めている

#### 主な取組

#### ① 芸術家を支え育てる目を持つ観客の育成

- 作品の背景等を知ることができるプレクチャー公演や文化セミナーの開催
- 芸術文化や歴史について深く学ぶことができる講座の開催

#### ② 県民等の参画と協働の促進

- ひょうごボランティア基金による地域の文化ボランティア活動等への支援（再掲）
- 社会教育施設等で活躍する文化ボランティアの資質向上（再掲）
- 芸術文化施設の運営委員会等への地域住民の参画
- 一般県民や関係者、庁内関係部局に向けた「芸術文化振興ビジョン」の周知・啓発

#### ③ 企業メセナ、ふるさと寄附、クラウドファンディング等の促進 **【重点取組4】**

- ネーミングライツの拡大や公演等への民間資金の導入
- ふるさと寄附やクラウドファンディングの促進
- 新たな寄附手法の導入（遺贈寄附等）

### (2) 県民、団体、企業、行政等の各主体の連携体制を強化する

#### 【展開方向】

- 芸術文化振興ビジョンのもと、一般県民を含む幅広い層の結集をめざすとともに、県芸術文化協会等を中心に緩やかな団体間・芸術家間の連携・協力体制を構築する
- 芸術文化の力を教育や観光・地域振興、シビックプライドの醸成など、多面的に地域づくりに活かしていくことがますます重要となっており、本ビジョンのもと、これまで以上に県各部局が連携して、芸術文化を活かした教育や地域づくりに取り組む
- 県と基礎自治体との連携強化を図るため、定例的な市町との意見交換の場を設置し、ソフト面を中心とした事業連携や芸術文化施策の課題共有等に努める
- 財源については、行政としての芸術文化振興の基盤となる財源の確保に努めるとともに、適正な利用料金設定等により県民への受益者負担を求めることや、外部資金の最大化により魅力ある芸術文化活動の推進及び芸術文化施設の維持に努める

## 主な取組

### ① 相互連携を支えるプラットフォームの整備

- ・ 美術館・博物館やアートイベント主催者相互の連携の推進
- ・ プロデュース力向上・ICT活用等に係る施設マネジメント講座等各種研修の実施
- ・ 阪神・淡路大震災や新型コロナウイルス感染症など災害等における教訓の収集と活用
- ・ 一般県民や関係者、庁内関係部局に向けた「芸術文化振興ビジョン」の周知・啓発（再掲）

### ② 国や市町、関係団体との連携体制の確立 【重点取組4】

- ・ 関西広域連合や創造都市ネットワークと連携した事業の実施
- ・ 県と市町の芸術文化担当組織による定例的な情報交換の場の設置
- ・ 毎年度のビジョンの進捗状況の確認・公表

### ③ 芸術文化振興のための財源の確保 【重点取組4】

- ・ 文化庁等の国省庁や、（一財）地域創造等の国関係団体の支援・助成事業の活用
- ・ ネーミングライツ、ふるさと寄附金、クラウドファンディング等民間資金の活用（再掲）
- ・ リーディングケース（県立芸術文化センター、県立美術館等）での検討結果の共有（再掲）



#### 神戸女学院大学と「芸術文化振興に関する協定」を締結

令和6年3月、兵庫県と神戸女学院大学（兵庫県西宮市）は「芸術文化振興に関する協定」を締結しました。

この協定は、兵庫県と神戸女学院大学が連携し、地域社会の音楽文化に貢献する人材育成を推進し、兵庫県の芸術文化の発展と地域社会の活性化に資することを目的とするもので、芸術文化センターから神戸女学院大学への講師派遣や、神戸女学院大学音楽学部の学生に県主催イベントに出演いただくなど相互連携を推進しています。



知事と学長による締結式



県主催イベントでの神戸女学院大学生のパフォーマンス



神戸女学院大学音楽学部の学生が贈る!子どものためのコンサート



震災 30 年事業 ～震災の教訓をともに未来に繋ぐ～

令和 7 年、阪神・淡路大震災から 30 年の節目を迎えました。県ではこれまでの「忘れない」「伝える」「活かす」「備える」に「繋ぐ」を加えた基本コンセプトを設定し、県民、関係機関・団体等と連携し、「ひょうご安全の日のつどい」をはじめ震災 30 年事業を全県で約 170 事業、芸術文化の分野では下表に記載の事業を実施しました。

これら事業を通じて、震災で傷ついた人々の心を癒やし、励ましてくれたのは芸術文化の力であったことを再認識するとともに、これからも復興に向けた原動力となった兵庫の文化力を広く発信していくこととしました。

<芸術・文化分野での主な関連事業>

題名	開催場所
Yokoo 1995 ー阪神・淡路大震災 30 年	横尾忠則現代美術館
ピッコロシアタープロデュース「神戸わが街」	県立芸術文化センター
兵庫県立芸術文化センタープロデュース「明日を落としても」	県立芸術文化センター
「シンポジウム災害と演劇を考えるー繋げる・繋がるためにー」	ピッコロシアター
特別展「阪神・淡路大震災を伝える・知らせるー情報と通信の 1990 年代ー」	県立歴史博物館
阪神・淡路大震災 30 年伝承事業シンポジウム「震災から 30 年とこれからの文化財保護」	県立考古博物館
芸術監督プロデュースコンサートジルヴェスター・ガラ・コンサート 2024	県立芸術文化センター
全国埋蔵文化財法人連絡協議会研修会	県立考古博物館
企画展「1995 ㊦ 2025 30 年目のわたしたち」	兵庫県立美術館
阪神・淡路大震災 30 年メモリアル作品「そらとみらいと」	県立芸術文化センター



ピッコロシアタープロデュース「神戸わが街」



阪神・淡路大震災 30 年メモリアル作品「そらとみらいと」大友良英作

## IV ビジョンの推進体制

### (1) 成果指標の設定

事業展開にあたって、各取組の正確な検証に基づく実効性を確保するため、第4期ビジョンにおいても第3期に引き続き以下の4項目を成果指標として設定する。

**指標1** 「暮らしの中で芸術文化に接する機会があると思う人の割合」

(兵庫のゆたかさ指標)

→ 令和12年(2030)までに 50%にする。 (現在値) 令和6年: 39.2%

**指標2** 「住んでいる地域で、自慢したい地域の「宝」(風景や産物、文化など)があると思う人の割合」

(兵庫のゆたかさ指標)

→ 令和12年(2030)までに 65%にする。 (現在値) 令和6年: 40.9%

**指標3** 「この1年間に外向いて芸術文化を鑑賞した人の割合」

(県民モニターアンケート)

→ 令和12年(2030)までに 90%にする。 (現在値) 令和6年: 88.1%

**指標4** 「この1年間に芸術文化活動を自ら行った人の割合」

(県民モニターアンケート)

→ 令和12年(2030)までに 55%にする。 (現在値) 令和6年: 39.9%

### (2) 進捗管理

本計画を着実に推進するため、毎年度、本ビジョンに基づく事業の進捗状況や予算の確保状況等について、県組織の関連部局への調査の実施や市町との定例的な意見交換の場における情報交換等により、結果を取りまとめて公表することでビジョン全体の進行管理を行っていく。

また、5年後を目途に計画期間全体の取組や各指標の達成状況等について評価・検証することで、ビジョン全体の見直しを行っていく。

